

梶田先生と振り返る思い出の一コマ

Vol.26

都幾川をはじめとする清流が流れ、比企丘陵の豊かな緑に囲まれた東松山市には、かつてたくさんのホタルが自生していました。しかし、時代の流れとともに自然環境が変化し、ホタルは減少していきました。

そこで、1999(平成11)年度に市民による検討委員会が「ホタルの生息実態調査結果」と「ホタルの里づくり基本方針」を市に提出し、それを基にホタルの里づくりが始まりました。

現在、東松山市には大岡・唐子地区などに12か所以上のホタルの生息地があるよ。



ホタルの里づくり協力隊が草刈りなどの保全活動を行って、ホタルが舞う美しい風景を守り続けているんだよ。

ホタルの里づくり

1999(平成11)年頃



キャラクター紹介

市内の小・中学生に配布された学習漫画「漫画でわかる 梶田隆章先生とニュートリノ」のキャラクターたちです。

ニュートリノ三兄弟



電ちゃん ミューやん タウっち

梨花(姉)



歩(弟)



梶田隆章先生



東松山市生まれ。東京大学宇宙線研究所教授。1998年にニュートリノ振動の発見を発表。2015年にノーベル物理学賞を受賞。

WITH FLOWERS

～暮らしに花を～

まるごとBOTAN PARKプロジェクト

市では、市の花「ばたん」を広めるため、「まるごとBOTAN PARKプロジェクト」を進めています。このプロジェクトを通じ、ばたんに関する知識を深め、皆さんの自宅をはじめ、市内各所でばたんを見て触れる環境づくりを目指します。



問 地域支援課 花いっぱい推進室 ☎21-1435 ☎22-7799

ばたんコンシェルジュ、誕生です!

「まるごとBOTAN PARKプロジェクト」活動の一環として、令和4年度には市職員を対象に「ばたんコンシェルジュ養成講座」を開催し、本年度より各市民活動センターに設置されたばたんコンシェルジュが、ばたんの育て方を市民の皆さんに広めています。センター敷地内では、ばたんコンシェルジュが育てているばたんが植えられていますので、センターにお立ち寄りの際にはぜひご覧ください!



ばたんコンシェルジュ講習会を市民向けに開催!

令和5年度は、市民向けにばたんコンシェルジュ講習会を開催しています。東松山ばたん園にて開催しており、園内に定植しているばたんを手入れし、学んでいます。この講座は4月から開始し、全3回の講習を受講すると、「ばたんコンシェルジュ」として認定されます。現在、20人が受講中です。

東松山ばたん園では様々なイベントが開催中!



東松山ばたん園HP

ちよつと より道

たかさか し じんかつどう みやはな
高坂市民活動センター(宮鼻)

高坂市民活動センターは、坂戸方面に向かう国道407号沿いにある曲線の構造が特徴的な建物で、総合会館や唐子小学校体育館なども手掛けた白江龍三氏が1994(平成6)年に設計したものです。

センター内には194席のホールをはじめとして、研修室、和室・茶室、会議室、工芸室、クッキングルームなどがあり、様々なサークルや地域団体が活動しています。また、センターでは毎年各種教室を開催しており、昨年度は高坂地区の伝統料理であるすまんじゅうづくり教室等を開催しました。

毎年8月に納涼盆踊り大会、10月に文化祭が開催され、地域住民の交流の場にもなっています。



交通：東武東上線「高坂駅」東口から南東方向に徒歩約20分
所在地：宮鼻860番地2
☎34-3730 ☎34-3845
開館時間：午前9時～午後9時30分
休館日：年末年始(12月29日～1月3日)



すまんじゅうづくり教室



高坂地区文化祭



田中理恵子園長



～園長おすすめ アカガシラカラスバト～



船に24時間乗らないと会えない

2月の末、東京の竹芝桟橋から船で24時間揺られ小笠原の父島を訪れました。目的の1つはアカガシラカラスバト。カラスの様に黒っぽく地味なハトですが頭部にうっすら赤みがあります。世界でも小笠原諸島にのみ生息し、2005年頃には生息数がたった40羽ほどになってしまいました。減った原因は人が持ち込み野生化したノネコ。その後、国と島民がひとつになってノネコ捕獲作戦がスタートし、10年で10倍の生息数に回復したそうです。東京都の動物園でも繁殖計画を進めて20年。そのうち3羽が分散飼育^(※)として埼玉県こども動物自然公園で飼育されています。

父島での感動の初対面は着いて2日目。7時間歩いた山の中、人の気配に驚き1羽が地面からパタパタと近くの枝にとまりました。鳴き声も出さずじっとこちらを見下ろしていましたが、遠くへ行く気もなさそう。さらに翌日には人家に近い森の地面で餌をついばむ7羽に遭遇。こちらをちらっと見たものの逃げません。父島から戻って4日後、島に暮らす友人から「家の前でガサガサ音がするからネズミだと思ったら2羽いたよ」とメールがきました。島育ちのカラスバトたちは基本的に緊張感が薄いようです。ノネコにつかまってしまう理由がなんとなくわかりました。

動物園で飼育している3羽は乳牛コーナー近くの鳥舎にいます。晴れた日に双眼鏡などで羽の色を見てください。頭部の赤、首や胸の緑色の光沢あるグラデーション、同居しているオシドリとの派手さとは一味違う美しさです。

※ 分散飼育・・・感染症や災害などの危険から守るため、違う施設で分けて飼育すること。



山の中で初めて出会った1羽



よく見るとあたまのほうがかっぱい



動物園で飼育している鳥舎

